



報道機関 各位

記者発表資料

令和3年3月18日（木）

問い合わせ先：生涯学習振興課

課長：山本

担当：吉田、武田

電話：829—1703

内線：4116

令和2年度「『地域学校協働活動』推進に係る文部科学大臣表彰」を受賞した谷田小学校、桜山中学校及びさくら草特別支援学校が市長を表敬訪問します

文部科学省では、地域と学校が連携・協働した、社会総掛かりでの教育の実現を目的に、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え地域を創生する活動において、その内容が他の模範と認められるものに対し、文部科学大臣表彰を行っています。

今年度、本市からは、谷田小学校、桜山中学校及びさくら草特別支援学校の取組が表彰されました。

つきましては、市長への表敬訪問を行いますのでお知らせします。

1 訪問日時：令和3年3月25日（木） 16時30分から

2 場所：さいたま市役所4階 市長室

3 訪問者：谷田小学校

・学校地域連携コーディネーター

かたおか みつこ 氏

・校長

いはら まさゆき 氏

桜山中学校

・学校地域連携コーディネーター

うえはら よしかず 氏

・校長

うえつぎ まさし 氏

さくら草特別支援学校

・学校地域連携コーディネーター

のぐち ひろし 氏

・校長

いしばし しんいちろう 氏

4 各団体の活動内容：別添資料のとおり

5 その他

(1) 新型コロナウイルス感染症の状況により、中止となる可能性があります。

(2) 取材に際しては、マスクの着用をお願いいたします。

こんな活動です

豊かな心と豊かな学びを育む地域学校協働活動 ～スクールサポートネットワークを活かして～

埼玉県さいたま市		●活動名 谷田小学校スクールサポートネットワーク		●関係する学校名 さいたま市立谷田小学校	
協働活動開始年度	平成 22 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—		
	—	放課後子供教室	—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	
	—		—	1人	
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	有
	637人	—	—	—	—
参考URL	http://yada-e.saitama-city.ed.jp/				
●連絡先	さいたま市立谷田小学校		☎ 048-882-2980		



●活動の概要・経緯
創立148年の本校は、代々本校卒業生の家庭が多く、日頃の支援のほか創立記念行事では地域を挙げて祝うなど、学校への惜しみない協力の精神に溢れている。平成10年以降は、平成16年度「特色ある学校づくり指定校」として芝生ボランティアが発足し、校庭全面の緑美しい芝生を維持し続けている。平成17年には、防犯ボランティアと読み聞かせボランティアが発足し、組織的・継続的な活動を展開している。また、平成21年に学校地域連携コーディネーターが配置され、平成22年度にはスクールサポートネットワーク(SSN)を立ち上げ、関係団体の連携・協働による学校支援体制が確立した。平成22年度にチャレンジスクールが開設され、筆教室開設時には各家庭から50面以上の筆が提供された。平成31年度からは、コミュニティ・スクールの準備を始め、令和2年度に学校運営協議会準備委員会を発足し、令和3年度に学校運営協議会を設置する。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

(1)チャレンジスクール(月、木、土)は専門講師を招いて、筆や囲碁等の常設教室、陶芸等の体験教室、租税・主権者教育等多様な講座を実施している。(2)芝生ボランティアは、毎日芝生の手入れを行い、緑化整備も行っている。(3)「なでしこ読み聞かせの会」は、定期的な読み聞かせのほかPTAや教職員と協働の「読み聞かせフェスタ」等の開催、図書環境整備等を行っている。(4)育成会は、「やだっ子広場」や「凧作り・凧揚げ大会」等世代を超えた児童・保護者・地域の交流を深めている。(5)PTAや地域の様々な学校支援ボランティアが定着し、SSN会議を中心に情報を共有しながら、毎日の見守りや挨拶運動など、精力的な活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

(1)SSNを通して関係団体等の調整を図ることで計画的・組織的な連携が図られている。(2)①校長等による毎日の地域巡回、地域行事等への参加・協力等相互関係の構築②毎月の学校だより等の個別配布や学校Webページの活用等の積極的な広報活動③学校行事への招待や感謝の会の開催等により、相互の関係性が深まった。

【関係機関・団体等との連携状況】

(1)SSN会議や広報活動を通して、NPO法人や民間等と連携した体験学習を開催する等、各団体の強みが生かされ情報共有が図られて、地域学校協働活動が活性化し、充実してきている。(2)令和3年度からは学校運営協議会とSSN会議の有機的な連携を図り、今まで以上に地域の意見を反映させた取り組みを推進していく。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

(1)チャレンジスクールが充実し、開設当初は年35回60人程度だったが、現在は年50回145人で定員を超える。(2)「やだっ子広場」等の行事が児童・保護者に大変喜ばれ定着している。(3)「やりがいがある」「元気がもらえる」と運営協力者がやりがいを感じており、地域の活性化に役立っている。(4)感謝の会等の交流を通して、日頃も地域の方に御礼を言ったり手伝ったりする児童が増え、地域の方から褒められることが増えた。(5)以前は会議に不参加だった方々が参加するようになる等、積極的な協力者が増え、和やかな校風が築かれている。(6)令和元年度学校評価で、学校・保護者・地域の連携・協働を良好と評価する保護者が99.7%と大変多く、そのうち最も良いA評価でも77.3%に達していた。

●その他

平成30年度より、土曜チャレンジスクールで日本漢字能力検定試験コースを加えたことで、谷田小学校の全児童を対象としたチャレンジスクール主催の漢字検定試験を、谷田小学校を会場として行い、毎年120人程度の児童が受検している。



日本陸上競技連盟特別コーチとして開催



青少年育成会主催の「やだっ子広場」を開催中

こんな活動です

学校運営協議会を核とした地域の絆づくり活動

埼玉県さいたま市		●活動名		●関係する学校名	
		桜山中学校スクールサポートネットワーク		さいたま市立桜山中学校	
協働活動開始年度	平成 23 年度以前	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動		地域課題解決学習	地域人材育成	
	—		放課後子供教室		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	
	—			1人	
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	有
	61人				
参考URL	http://sakurayama-i.saitama-city.ed.jp/				
●連絡先	さいたま市立桜山中学校		☎ 048-794-4061		



●活動の概要・経緯
桜山中学校では、桜山中学校スクールサポートネットワーク協議会を設置し、学校と地域諸団体等との連携・協働推進の要となる学校地域連携コーディネーターのコーディネートのもと、諸団体間での情報交換や、地域学校協働活動等を行っている。さらに、平成31年度、さいたま市教育委員会より桜山中学校・東岩槻小学校連携のコミュニティ・スクールモデル校の指定を受け、令和元年度より小・中連携のコミュニティ・スクール実践校として、学校運営協議会を設立した。桜山中学校・東岩槻小学校の児童生徒の健全育成をねらいとしながら、「基礎学力の向上」と「豊かななかかわりの充実」をテーマに、学校運営協議会として出来ることを探究・実践している。桜山中40周年を学校・地域で祝うことや、両校の土曜チャレンジスクールでも連携していくとの学校運営協議会の決議を受け、学校運営協議会主催による音楽会を実施したり、小学校で実施している漢検を中学校の土曜チャレンジスクールでも導入・実施したりする等、小・中連携を意識して地域とかがわり合いながら様々な地域学校協働活動を行っている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「あいさつが大事。」をモットーに、小・中両校で「あいさつ運動」を実施している。中学校では、登下校時に教職員が挨拶に立ち、生徒会・保護者も「あいさつ運動」を行なっている。また、冬季に小・中学生が合同で「あいさつ運動」を展開している。
- ②土曜チャレンジスクールでは、地域住民等のボランティアが自主学習をサポートし、生徒の学びの向上を支えている。小学校で実施している「漢検」を導入する等、新たな取組も行っている。
- ③「豊かななかかわりの充実」の一環として、学校運営協議会主催の音楽会を開催し、小・中両校と地域住民の協働による「地域とともにある学校づくり」を進めた。吹奏楽団による演奏や、楽団と児童生徒との競演等、本物の芸術に触れさせることにより、子どもたちの豊かな感性をはぐくむことができた。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校も各地域諸団体もそれぞれ独自に活動を行っているため、連携行事は前年度に協議し、次年度の日程を決定。
- ・学校地域連携コーディネーターが活動時の事故がないように、事前打ち合わせの際に手順や進め方、安全面等について助言・指導。
- ・地域の活動を充実させるため、参加人数を確保できるよう、効果的な広報を実施。

【関係機関・団体等との連携状況】

桜山中学校スクールサポートネットワークでは、学校運営協議会と密接な連携を図っている。学校運営協議会のメンバーは、地域自治会長、民生児童委員、福祉協議会長、幼稚園、保育園、養護施設園長、両校PTA会長等の29名で構成される。前述のとおり、学校運営協議会の決議を受け、令和元年度は、「学校運営協議会主催音楽会」等の地域学校協働活動を実施した。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

桜山中学校・東岩槻小学校の学校運営協議会を中心に、両校関連の連携・協働が進み、地域にも活気が生まれている。小・中合同で開催した音楽会は、児童生徒、教職員、保護者、地域住民や教育長、区長等合わせて730人が参加する盛大なもので、夢の時間を共有することができた。参加者からは、「地域で実現した音楽会のモデルケースとなったと思う。」「音楽会で唄い踊っていた子どもたちの表情は忘れられません。」等の声が聞かれた。従来の学校評議委員会の枠組みよりも、学校運営協議会はスケールが大きい、実行力もある。今後も学校運営協議会とスクールサポートネットワークとが密接な連携や情報交換を図りながら、地域学校協働活動を実施していく。

●その他

中学生職場体験事業「未来(みら)くるワーク体験」では、地域の事業所が生徒を受け入れてくれている。(令和元年度受入れ事業所数:20)



学校運営協議会主催の音楽会



土曜チャレンジスクール

こんな活動です

さくら草 明日に夢ネット！ ～ノーマライゼーション社会の基点として、地域との共生意識の涵養～

埼玉県さいたま市	●活動名	●関係する学校名
	さくら草スクールサポートネットワーク	さいたま市立さくら草特別支援学校

協働活動開始年度	平成 24 年度	学校運営協議会	指定・設置日	令和4年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	—	—	—	地域人材育成	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	—	地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数
—	—	—	—	—	—	1人
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	—	無
—	98人	—	—	—	—	—
参考URL	http://sakurasou.saitama-city.ed.jp/					
●連絡先	さいたま市立さくら草特別支援学校		☎ 048-712-0395			

本校高等部の生徒と市立浦和南高等学校漫画研究部が交流及び共同学習を通じて考案したマスコットキャラクター「プリムローズ そら・くう・さく・さら」



●活動の概要・経緯
本校は、小学部・中学部・高等部で構成され、肢体不自由と知的障害を併せ有する児童生徒37名が在籍し、開校9年目を迎える。開校以来、児童生徒が近隣地域宅に訪問し、学校だより等を届ける活動、地域の福祉施設や企業での社会体験活動を展開してきた。触れ合いが深まるに連れ、地域の住民や自治会ははじめ、社会福祉協議会、近隣の高校、専門学校、大学の学生による支援活動の和が広がってきた。現在では、校地内の花卉栽培、学校行事の運営支援、コンサートや交流作品展など、地域や諸機関と学校との協働活動が定着しつつある。また、地域のロータリークラブやプロスポーツチーム、民間企業、障害児福祉施設などとの連携も進められている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

地元住民や地元ボランティア団体、手話サークル、ロータリークラブ、近隣幼稚園などと連携し、「ふれあいコンサート」を定期的で開催している。プログラムは、手づくり楽器による全員合奏、手話披露、PTA合唱や園児の踊りなど、児童生徒とのふれあいを中心とする全員参加型とし、地域ぐるみの文化音楽活動を展開し、学校理解を図るとともに連携協働体制の深化に繋げている。また、高等部では、福島県いわき市で展開されている地域活性化事業「オーリーブプロジェクト」に協力するため、地域のボランティアの方々とともにオーリーブの挿し木作業に取り組み、育てた苗木を現地に届ける活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

学校地域連携コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）が中心となって、学校と地元自治会や社会福祉協議会、関係する団体との連絡調整を担い、学校の狙う目的に沿うような活動内容となるよう擦り合わせをしている。また、活動の事前打合せ会や事後評価の情報提供などに配慮し、持続可能な取組に繋がるように工夫している。

【関係機関・団体等との連携状況】

スクールサポートネットワーク協議会で、日常の教育活動の様子や地域の方々や関係機関等と児童生徒の係わり状況などについて、動画や写真による報告にもとづいた意見を交換することによって、協働活動の工夫改善点が得られるとともに、メンバー間の相互理解や信頼関係が深まり、学校との連携体制が一層強くなってきている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

本校は、歴史が浅く通学区域が広範囲に渡っており、所在地近隣住民に対して、特別支援教育への理解促進と連携協力体制の構築が大きな課題の一つとなっていた。地域宅への訪問活動や学校行事等への積極的で粘り強い参加協力依頼、教育活動の積極的な情報発信を通して、応援団体が年々増えてきた。現在では、25の団体や機関から支援を受けており、幅広い年齢の多様な方々とのふれあい活動に繋がっている。また、年度末に実施している学校評価結果においても、地域との連携した教育の効果については、教職員、保護者ともに肯定的な割合が増えている。地域学校協働活動によって、児童生徒、保護者、教職員、参加者の皆さんの笑顔が増えてきており、地域に根ざした学校となりつつある。

● その他

地域の方との交流を大切にしている。毎年地域の方を招いて「ふれあいコンサート」を開催している。令和元年度はさいたま櫛ロータリークラブと共催でズーラシアンブラスの演奏を楽しんだ。また、浦和レッズとの交流では校内の花壇にバラの植栽を行った。



地域へのお手紙配り



ボランティアの挿し木作業との